

県内の肉用繁殖牛における Bovine leukemia virus 感染状況とその特徴

茨城県県西家畜保健衛生所

○藤井勇紀 赤上正貴

県内の肉用繁殖牛における Bovine leukemia virus (BLV) 抗体保有状況とプロウイルス量に基づく伝播リスク分類の調査を実施。第1クール (H30年4月～R3年3月) では313農場4,116頭を検査し、抗体陽性牛率は43%。抗体陽性率別に農場を分類すると、陰性農場か高度汚染農場 (抗体陽性牛率90～100%) のいずれかに分布が集中し、感染状況が二極化。伝播リスク分類は、高/中/低/無視のリスク群順に19.6%/28.3%/17.9%/35.1%で、抗体陽性牛の約半数が高・中リスク群と判明。第2クール (R3年4月～R6年7月) では104農場1,242頭の検査を実施し、第1クールの同一農場 (104農場1169頭) の結果と比較。第1から第2クールにかけて、抗体陽性牛率は40.0%から47.6%に増加 ($P<0.005$)。また、抗体陽性牛率について、変化なしは49農場 (47.1%)。減少は16農場 (15.4%) で、そのうち4農場で清浄化を達成。増加は39農場 (37.5%) で、そのうち、陰性農場から陽転した農場は11農場。伝播リスク分類については、高・中リスク群の割合に有意な変化はなし。今回の比較結果では、抗体陽性牛率が有意に増加し、県内のさらなる BLV 感染拡大を危惧。今後は第2クールの現在検査中の農場も加え比較検討を実施するとともに、農場ごとに陽転要因を調査し、対策につなげたい。